

果実の需要の長期見通しに即した栽培面積その他
果実の生産の目標(H17策定)の状況



平成21年7月

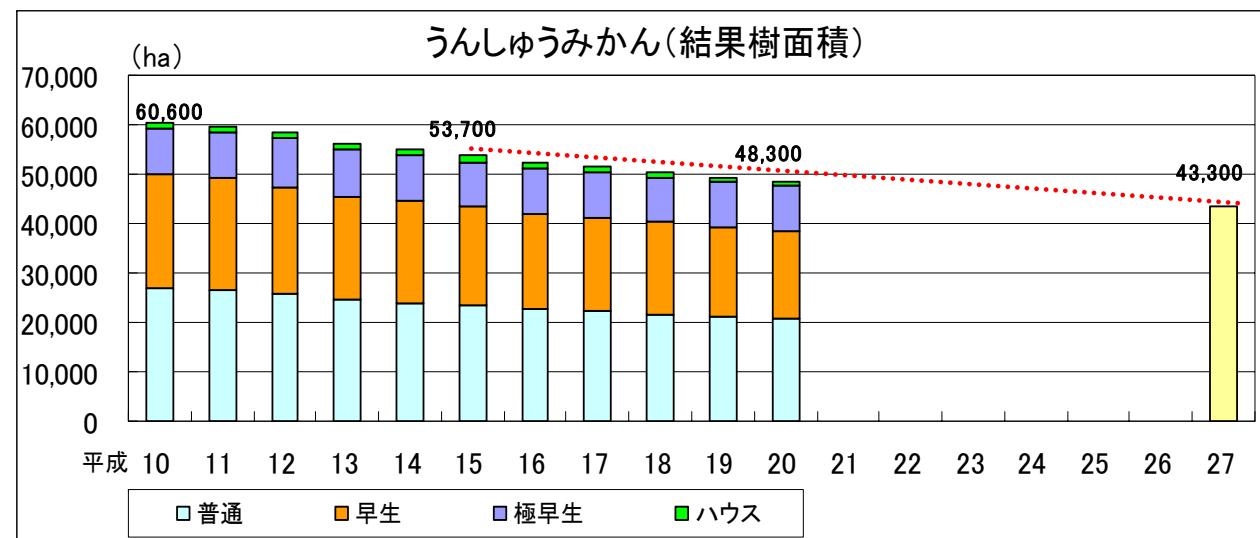
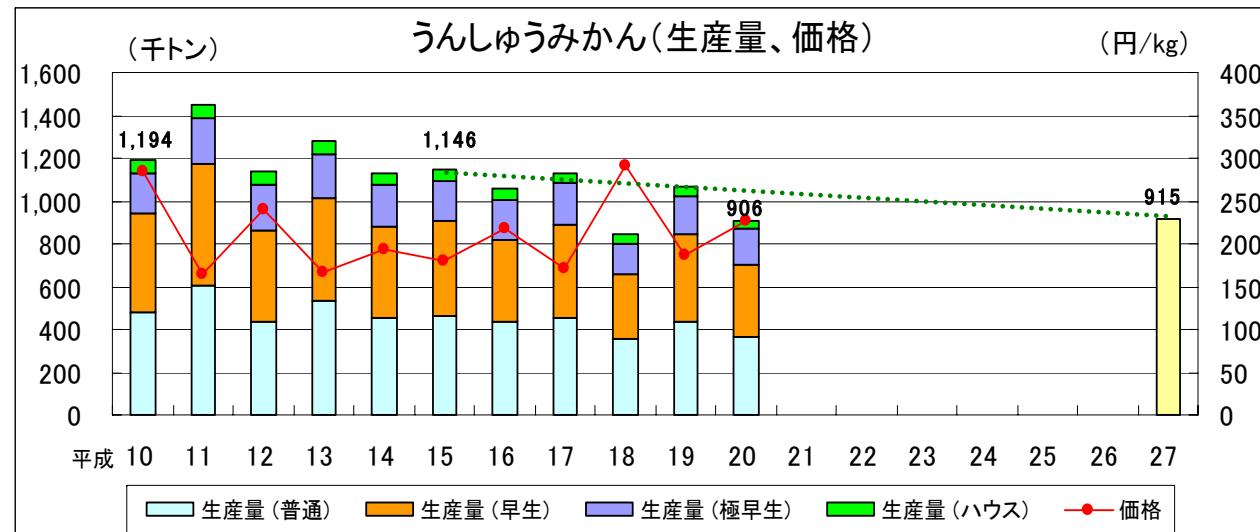
農林水産省

1. うんしゅうみかん

- 結果樹面積はほぼ目標に近いペースで減少。
- 平均価格はおもて年、うら年の変動が激しいものの、横ばいで推移。
- 平成18年産以降で隔年結果の傾向が強まる。

■現行振興方針における生産量の目標値の考え方

過剰感のあるうんしゅうみかんから、国産果実の端境期需要に即した高品質品目・品種への改植及び条件不利園地の廃園を推進することから、現状を大幅に下回る。



資料:農林水産省「果樹生産出荷統計」

注:価格は、1、2類都市市場の平均卸売価格

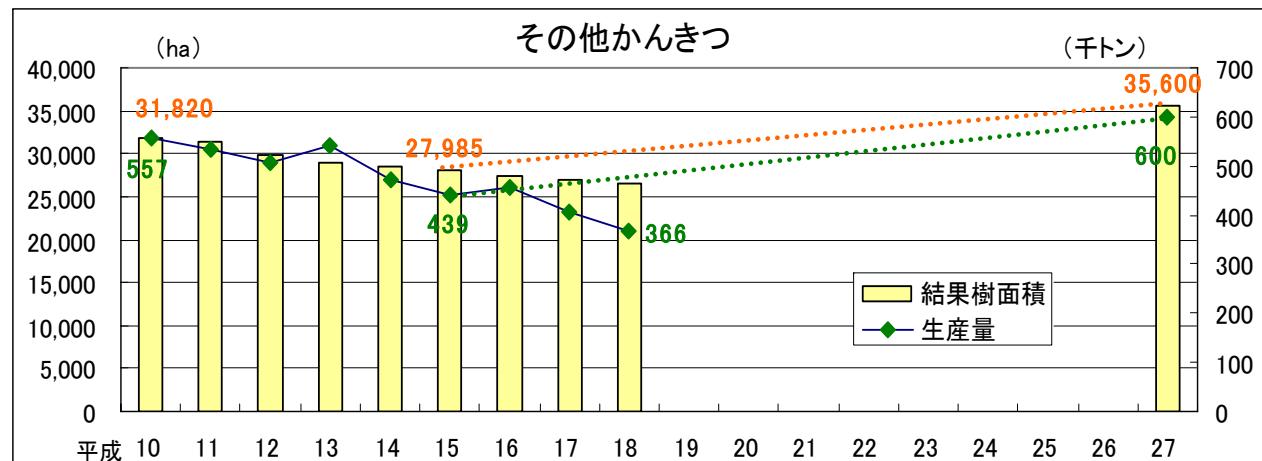
2. その他かんきつ

○「4晩かん」の結果樹面積、生産量の減少が大きい。「しらぬい」等の新たな晩かん類の栽培面積は増加傾向。

○基本方針の目標に比べて、うんしゅうみかんから晩かんへの転換が進んでいない。

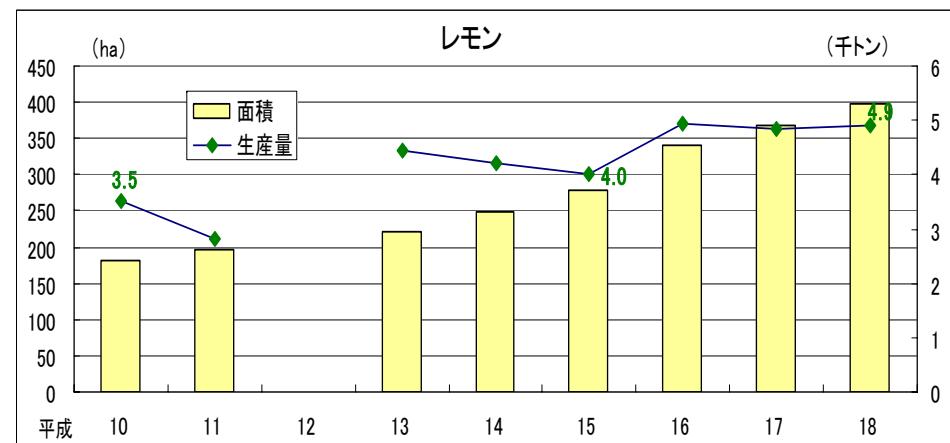
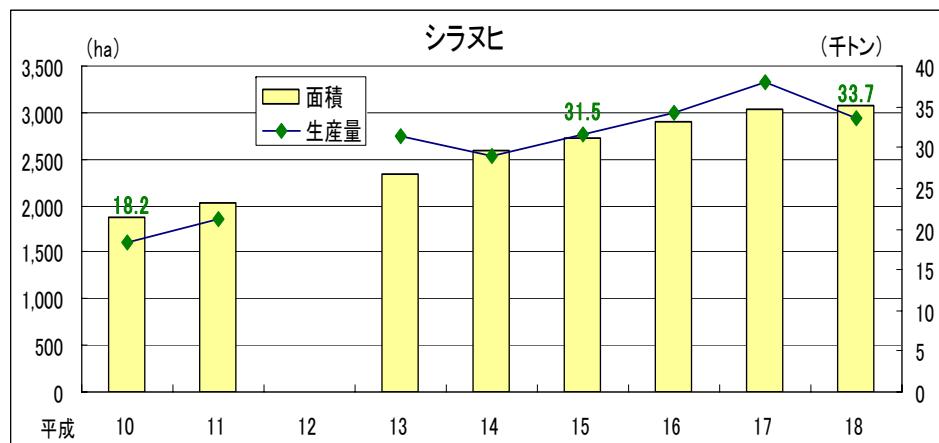
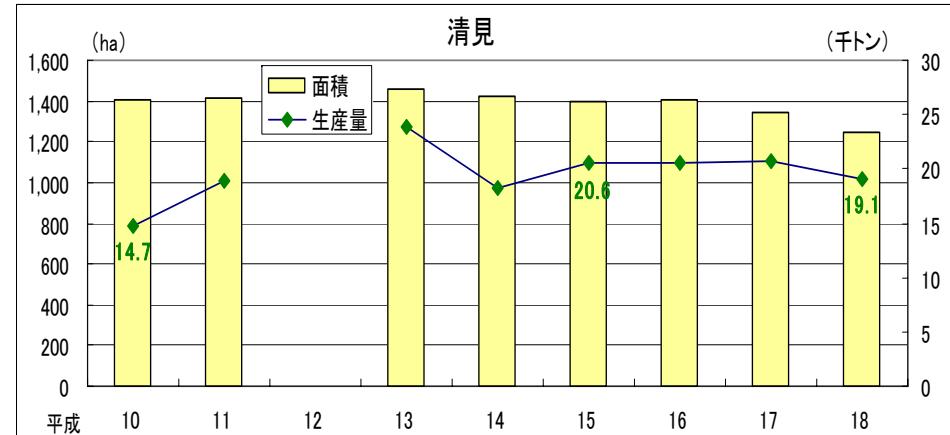
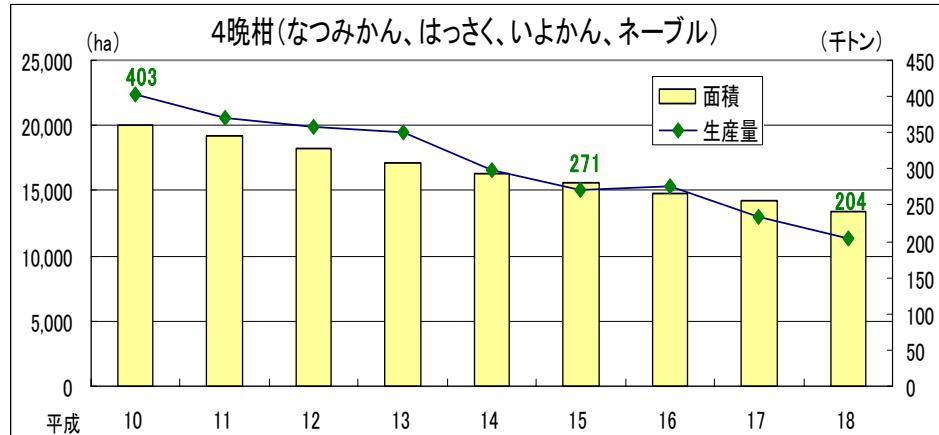
■現行振興方針における生産量の目標値の考え方

うんしゅうみかんから、「清見」、「シラヌヒ」等国産果実の端境期需要へ対応した高品質品目・品種への改植等を推進することから、現状を大幅に上回る。



資料:農林水産省「果樹生産出荷統計」、「特産果樹生産動態等調査」

<参考>「その他かんきつ」の主な品目の動向



資料 4晩柑:農林水産省「耕地及び作付け面積統計」、「果樹生産出荷統計」

その他:農林水産省「特産果樹生産動態等調査」。ただし、平成12年は調査を実施していない。

3. りんご

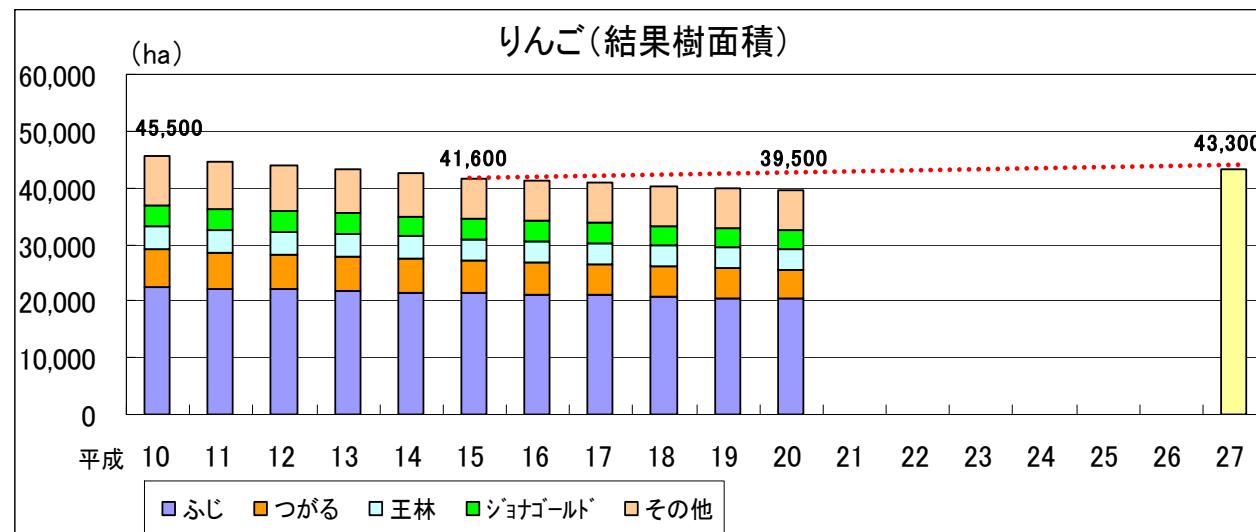
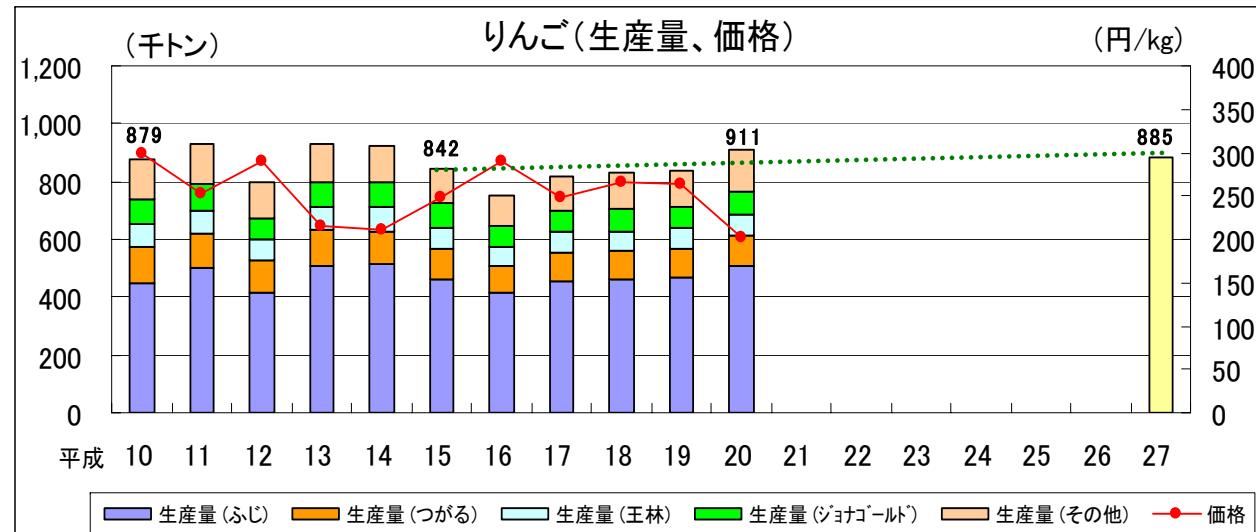
○結果樹面積は微減しているが、わい化栽培の普及等により、単収は増加。

○価格は横ばいで推移。

(平成20年は災害の影響もあり異常年との認識)

■現行振興方針における生産量の目標値の考え方

生産量は減少傾向だが、「シナノスイート」、「秋映」、「きおう」等の早・中生の優良品種の育成・導入を推進するとともに、輸出向けに一定の生産量を見込み、現状と同程度。



資料:農林水産省「果樹生産出荷統計」

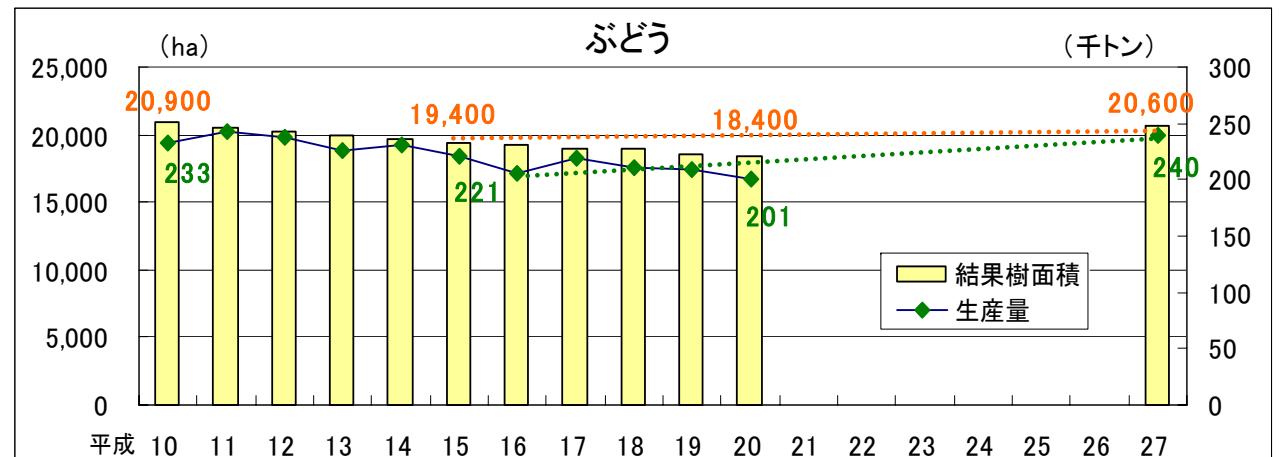
注:価格は、1、2類都市市場の平均卸売価格

4. ぶどう

- 結果樹面積、生産量とも微減。
- 年次変化があるものの、価格は横ばい傾向で推移。

■現行振興方針における生産量の目標値の考え方

「巨峰」、「ピオーネ」等への転換、「安芸クイーン」、「藤稔」等の大粒系品種の開発が進められていることから、現状を上回る。



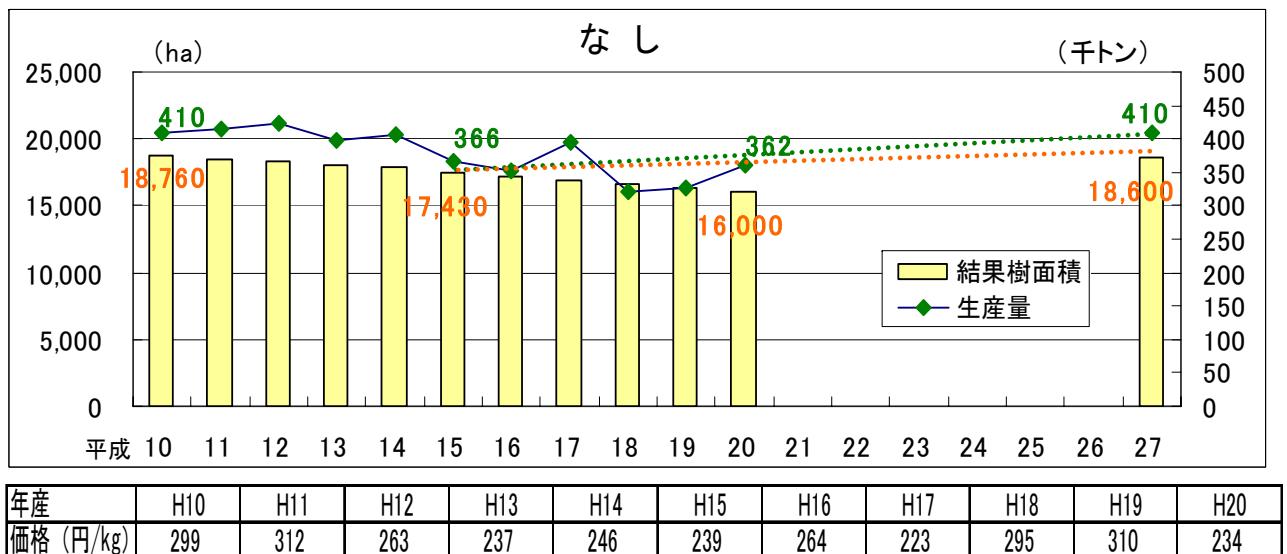
資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」。価格は、1、2類都市市場の平均卸売価格。

5. なし

- 結果樹面積は微減。鳥取県等の青なしの減少が大きい。
- 価格は年次変化が激しい傾向。

■現行振興方針における生産量の目標値の考え方

日本なしでは「ゴールド二十世紀」、「南水」等への転換が、西洋なしでは「ラ・フランス」の一層の単収増加や早生種である「越さやか」等の高品質品種の開発が進められていることから、現状を上回る。



資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」。価格は、1、2類都市市場の平均卸売価格。

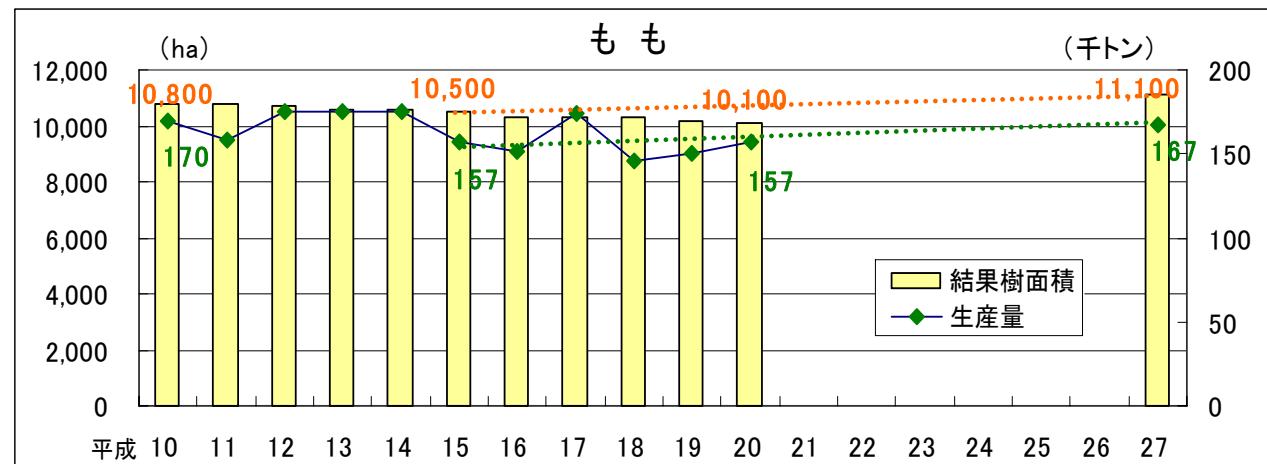
6. もも

○栽培面積は微減しており、生産量は横ばい。

○価格は年次変動あるものの横ばい傾向で推移。

■現行振興方針における生産量の目標値の考え方

生産量は横ばいで推移。早生種の「日川白鳳」、中生種の「あかつき」、中晩生の「川中島白桃」等への転換、「なつっこ」等新品种の開発が進められており、現状と同程度。



資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」。価格は、1、2類都市市場の平均卸売価格。

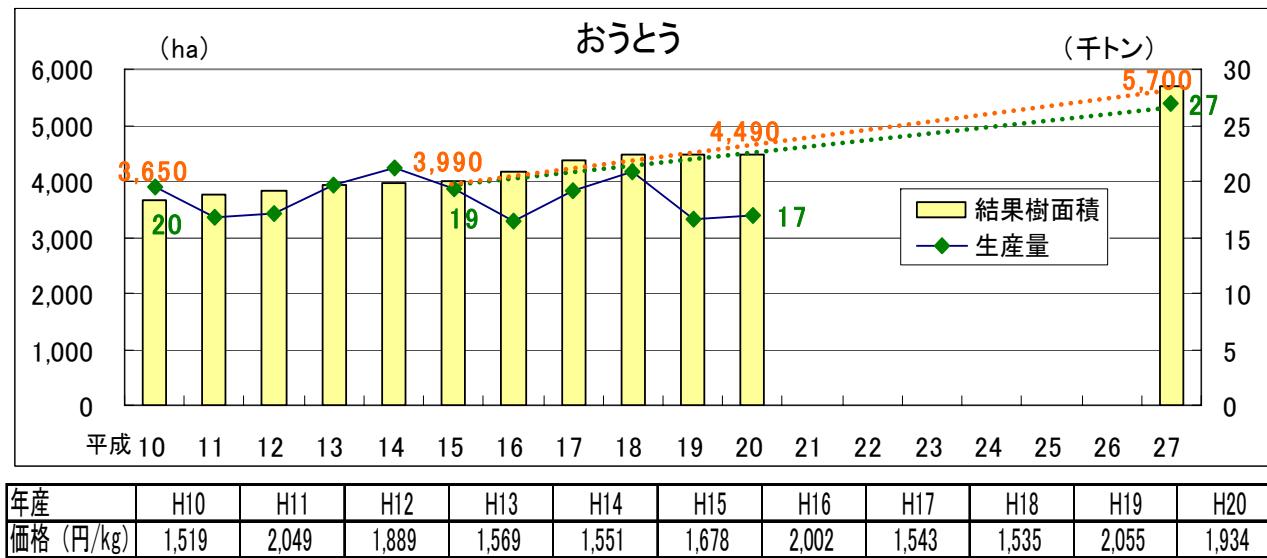
7. とうとう

○結果樹面積は増加しているが、開花期から果実肥大期の天候不順等により、生産量が平成18年以降減少している。

○価格は年次変動が激しい傾向。

■現行振興方針における生産量の目標値の考え方

早生種の「紅さやか」、極晩生種の「紅つまり」等の大玉で高糖度の品種の開発・普及が図られていることから、現状を大幅に上回る。



資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」。価格は、1、2類都市市場の平均卸売価格。

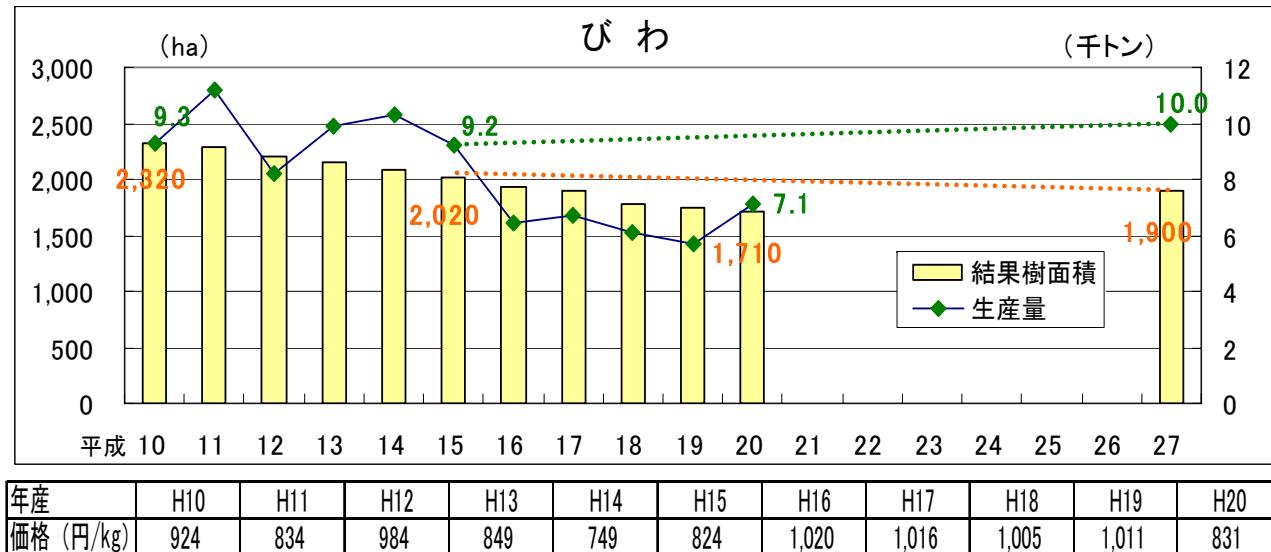
8. びわ

○結果樹面積、生産量ともに減少しているが、20年は生産量が増加している。

○価格は生産量が少なかったH16～H19は高かったが、全体としては横ばい傾向。

■現行振興方針における生産量の目標値の考え方

生産量は減少傾向だが、主産県の長崎県において「涼風」、「陽玉」、「麗月」等の高品質品種が開発されていることから、現状と同程度。



資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」。価格は、1、2類都市市場の平均卸売価格。

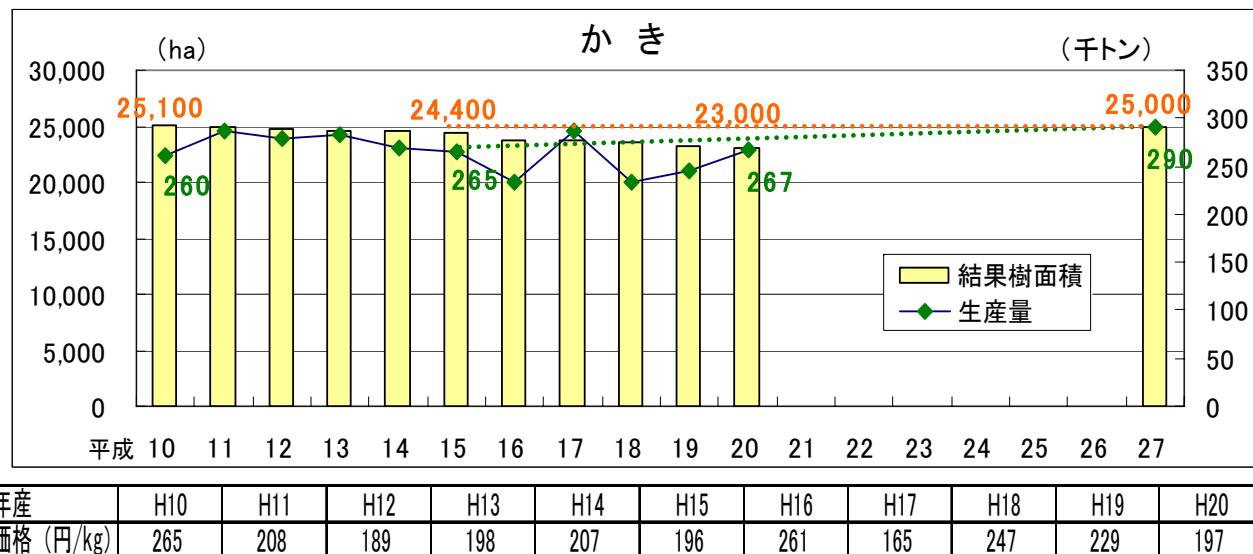
9. かき

○結果樹面積は微減傾向であるが、単収は近年増加傾向であり、生産量は横ばい。

○価格は横ばい傾向

■現行振興方針における生産量の目標値の考え方

甘がきでは早生で日持ちの良い「早秋」、極大の「太秋」等、渋がきでは「刀根早生」より早生種の「中谷早生」等の新品種の開発・普及が進められていることから、現状を上回る。



資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」。価格は、1、2類都市市場の平均卸売価格。

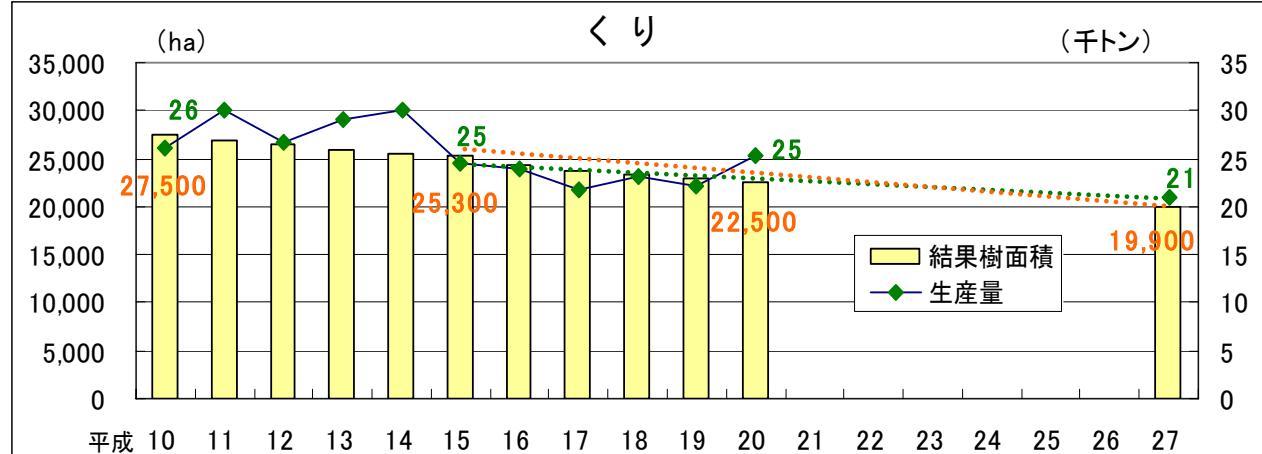
10. くり

○結果樹面積は微減傾向であるが単収増加により生産量は増加。

○価格は横ばい傾向。

■現行振興方針における生産量の目標値の考え方

早生種で食味良い「ソフト西明寺」、「神峰」等の高品質品種が開発されているが、減少傾向を止めるほどの効果が期待できず、現状を下回る。



資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」。価格は、1、2類都市市場の平均卸売価格。

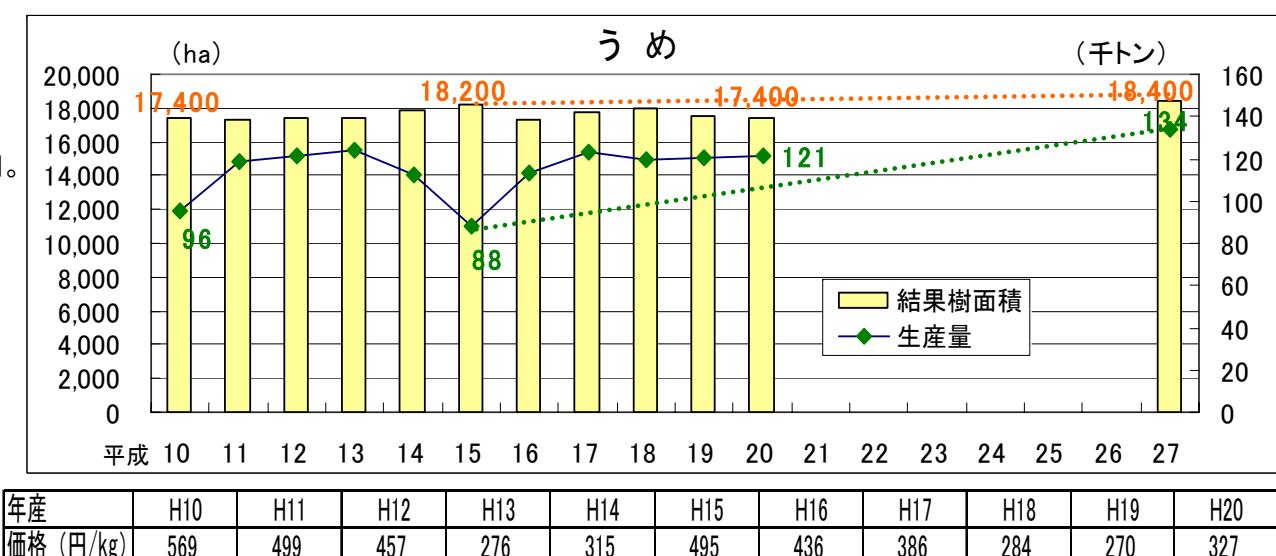
11. うめ

○結果樹面積、生産量ともに横ばい傾向。

○価格は年次変動あるものの、横ばい傾向。

■現行振興方針における生産量の目標値の考え方

主産県の和歌山県で、梅干し、加工適正に優れる「南高」への転換、豊産性で加工用に適する「新平太夫」等の高品質品種の開発・普及が進められていることから、現状を大幅に上回る。



資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」。価格は、1、2類都市市場の平均卸売価格。

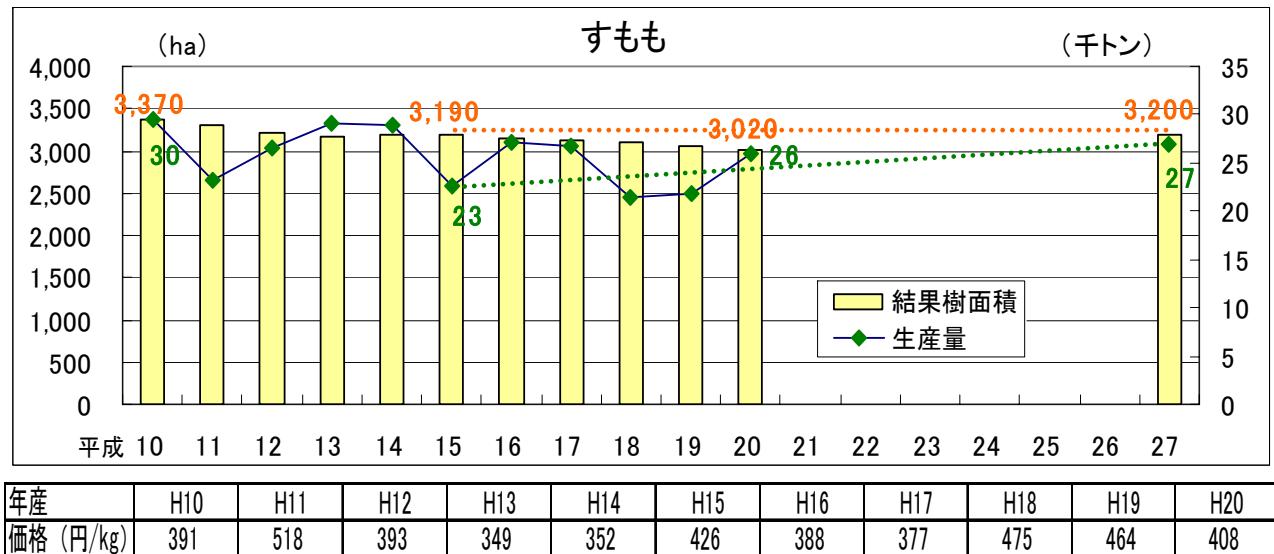
12. すもも

○結果樹面積は微減。生産量は年次変動あるものの、横ばい傾向。

○価格は横ばい傾向。

■現行振興方針における生産量の目標値の考え方

生産量は減少傾向だが、晩生種の「太陽」や、「貴陽」、「シンジョウ」等の高糖度品種の開発・普及が進んでいることから、現状と同程度。



資料:農林水産省「果樹生産出荷統計」。価格は、1、2類都市市場の平均卸売価格。

13. キウイフルーツ

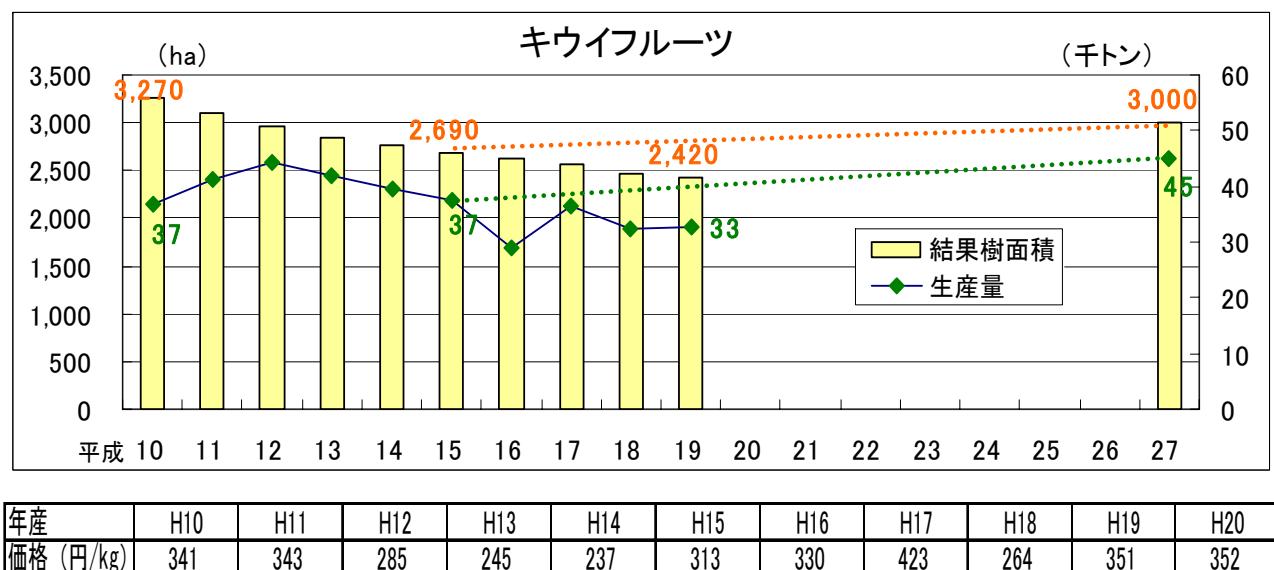
○結果樹面積は減少傾向。

○生産量は横ばい傾向。

○海外企業の契約栽培も定着している(ゼスプリ社)

■現行振興方針における生産量の目標値の考え方

「香緑」、「香粹」等の高糖度、高品質品種の開発・普及が進んでいることから、現状を上回る。



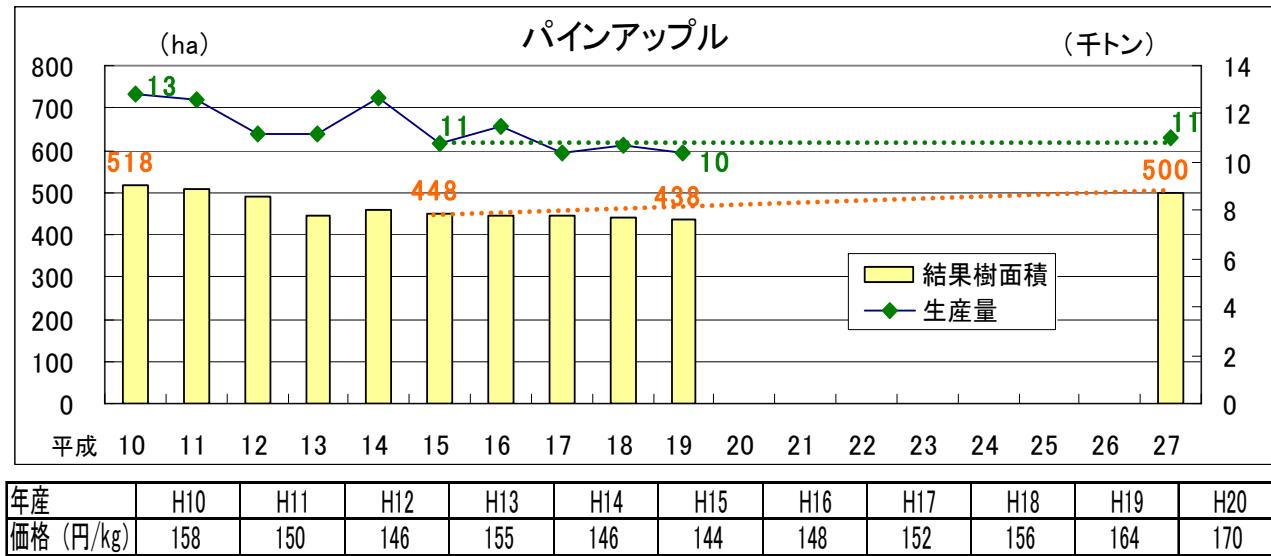
資料:農林水産省「果樹生産出荷統計」。価格は、1、2類都市市場の平均卸売価格。

14. パインアップル

- 結果樹面積、生産量ともに微減傾向。
- 価格は平成15年以降上昇傾向。

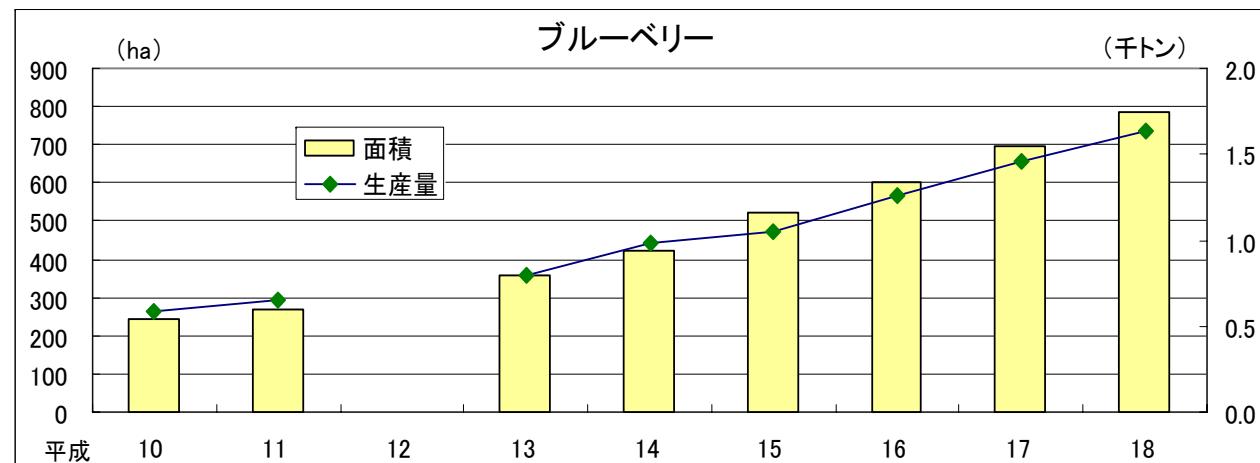
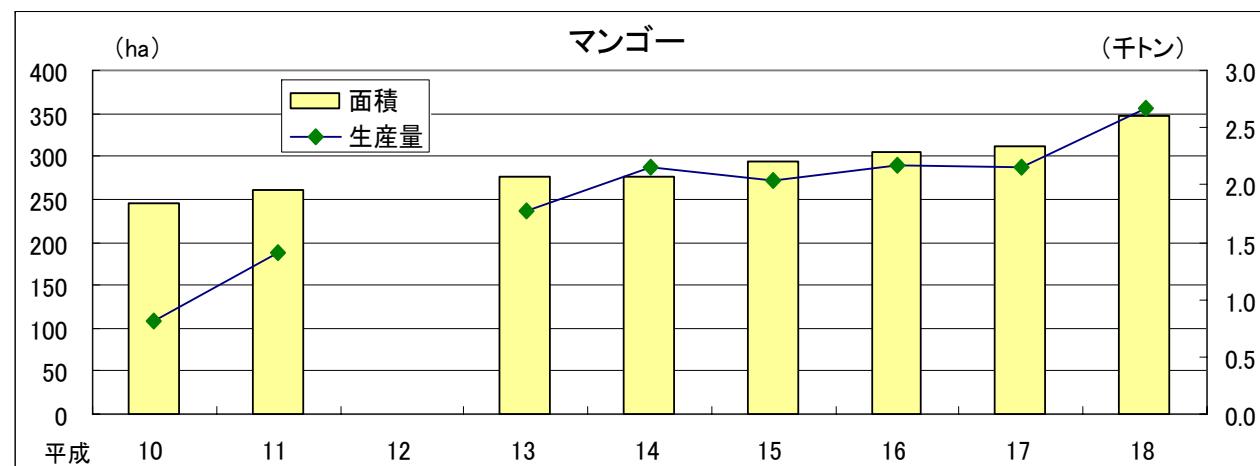
■現行振興方針における生産量の目標値の考え方

生産量は減少傾向だが、贈答、直販、みやげ等において、国産パインアップルの需要が依然として見られていることから、現状と同程度。



資料:農林水産省「果樹生産出荷統計」。価格は、1、2類都市市場の平均卸売価格。

<参考>政令指定品目以外の果実の動向



資料：農林水産省「特産果樹生産動態等調査」。ただし、平成12年は調査を実施していない。